

洋10-124 (ショートコメント)

「100歳の少年と12通の手紙」

☆☆☆

2010 (平成22) 年10月14日

鑑賞<GAGA試写室>

監督・脚本：エリック＝エマニュエル・シュミット

ローズ (デリバリーピザの女主人) / ミシェル・ラロック

オスカー / アミール

デュッセルドルフ (医師) / マックス・フォン・シドー

ゴメット (婦長) / アミラ・カサール

リリー (ローズの母) / ミレーヌ・ドモンジョ

2008年・フランス映画・105分

配給 / クロックワークス、アルバトロス・フィルム

◆ わずか10歳にして白血病にかかってしまったオスカー少年 (アミール) の余命は何とあと12日間。デュッセルドルフ医師 (マックス・フォン・シドー) から両親へのそんな告知を隠れ聞いたオスカーのショックは大きかった。しかし、そんなオスカーに対して変に気をつかうことなく、正直に向かい合ってくれたのがちょっと口の悪い女性・ローズ (ミシェル・ラロック)。ローズは今デリバリーピザの女主人をしているが、かつては栄光の女プロレスラーだったらしい。落ち込むオスカーに対してローズが教えたあっと驚く知恵は、「残された命はたった12日」と考えず、「1日を10年間と考える」ということ。なるほど、それなら今10歳のオスカーは100歳以上生きられることになるから、その間恋愛、結婚その他いろいろと・・・。

◆ 私は文章を書くのが大好きだが、ローズがオスカーにもう1つ教えたことは、毎日神様宛の手紙を書くこと。理論的には10年間は3650日あるから、10年間毎日書いたら3650通の手紙になるはずだが、現実には1日に1通書くだけだから、12日間の余命があればその間に書く手紙は12通。本作の原題は『OSCAR ET LA DAME ROSE』だが、邦題は『100歳の少年と12通の手紙』。なるほど、邦題はローズの「仕掛け」をそのままタイトルにしたわけだ。

◆ 最初の「論点整理」を終えた後、映画は丁寧にオスカー少年とローズとの濃密な交流を通じて、オスカー少年の「成長」を描いていく。今オスカーは10歳だが、2日後、3日後には30歳、40歳。その頃にはさまざまな人生体験をしているはずだ。そんなオスカー少年の人生の歩みには、リング上におけるファンタジー色いっぱいのかつてのローズの栄光の日々が重ねられていく。まずは、今20歳になろうとしているオスカーには、体が青く染まる病気で入院中の少女・ベギー (マチルド・ゴファール) との恋模様が・・・。

◆ 映画が描くのは、12月20日からクリスマスを経て12月31日までの12日間。さあ、オスカー少年の100歳の人生の歩みとは？そして、毎日書く神様宛の手紙で語られるオスカー少年の思いとは？そんなバカな！そんなことありえねえ！と思いつつ、あなたの目に次第に涙が浮かんでくることまちがいなし！

2010 (平

成22) 年10月19日記